

## 小野友梨香:女性ジャーナリストたちが描く戦争の姿

### 要旨

本論文では、男性社会の様相が強い戦場という取材現場で活躍する女性の戦場ジャーナリストに焦点を当て、「女性だから取材できるテーマがある」「男性のジャーナリストと女性のジャーナリストが書く文章では同じことを伝えていても印象や受け取り方など文章の書き方に違いがある」という2つの仮説の立証を行った。

検討にあたって、日本人女性ジャーナリスト山本美香の4作品及びフランスの女性記者たちのエッセイや雑誌記事1つを研究対象とした。

検討の結果、女性ジャーナリストは、総じて、イスラム教の女性たちへの取材や年齢、性別に限らず取材相手の警戒心を減らし、様々な話を聞くことができていたことが判明した。このことから「女性だから取材できるテーマがある」という仮説は正しかったと言える。しかし、「男性ジャーナリストと女性ジャーナリストが書く文章では同じことを伝えていても印象や受け取り方など文章の書き方に違いがあるのではないか」という仮説については、男性と女性では感性や視点が異なるものの、文章の受け取り方は読み手側の主観に左右されるため、仮説の十分な証明には至らなかった。

昨今の世界ではウクライナや中東などで戦争・紛争が続き、ジャーナリストの取材が必要な現場は多く、その中で女性の書き手の役割も重視されるべきだと考えている。